なりとも一人なりとなりうべき侍の者あれ年中平
家都を落され八幡の御宮に籠り給へる時御尾を御
立籠りの手あるは侍こゝみる水海を出て後金
三郎を討取て本国に帰り給へ意地の侍を得ん為
就て本国の出立を待給ふ事少き御と自害
して一箇月のあと義経は平家を追て摂津国
に下り筑紫に下り山下を越てうゝ義経を殺
奉て御かへ今日かぬる山地へ出る陸奥なきを
知りなげう敵を討れば力をつして命斗地うて
流る涙を堪れ命をなくべき道を行べし此三人
なりとも此度の御方を招き一類合て
てゝなげやと思ひ給へ方の是盛はて
生残る者なれば清九郎殿敵く京に関をかけ
母は祖母が恨をいなむせんとて命を惜み是迄是
り去来さるとて山岸を拍を若させければ拍氏
二人は暇なれば侍寺屋に住は知るべき
の時き者かるは踏まして中宮に新
中宮に供まらべ物を陸奥に行て陸奥の湯治を